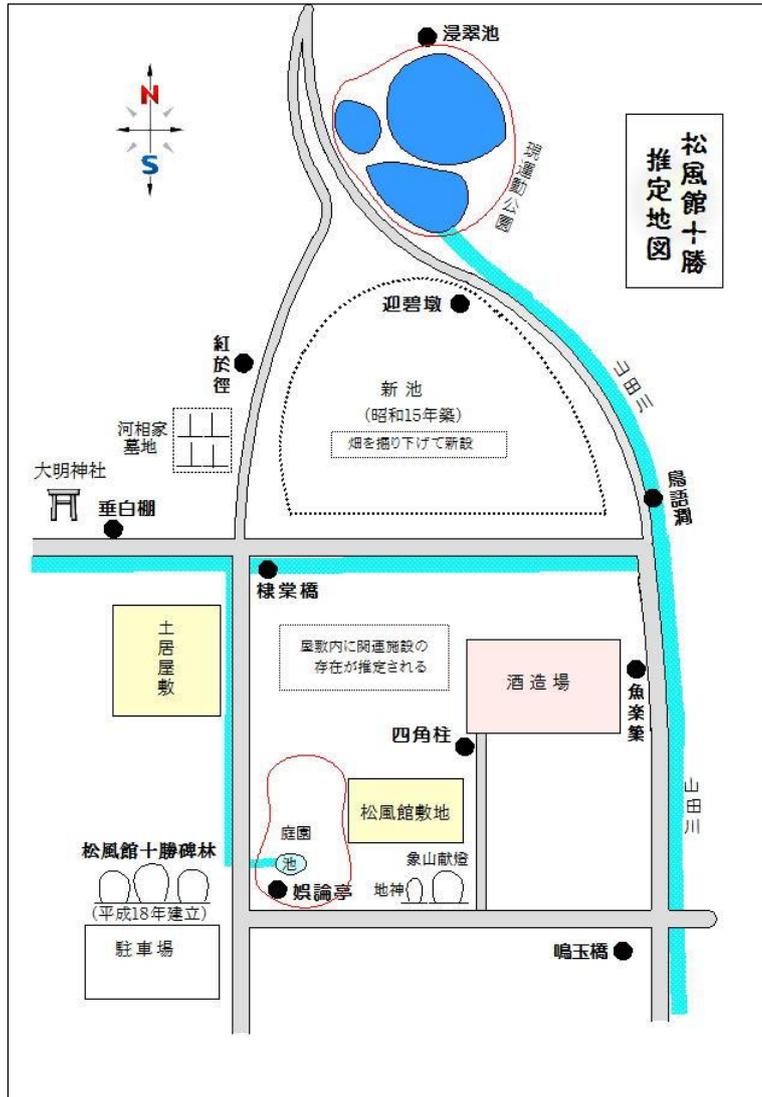


山田谷 松風館跡周辺

河相君推

宝暦7年(1757)備中国井原村 旗本池田修理家の代官猪原幸右衛門の次男として生まれ、西中条村河相重義の娘通知の夫として入り婿になる。文政元年(1818)62歳で没する。名は保之、字は君推、通称を周次(治)郎、松風と号した。河相家の先祖は出雲の佐々木氏で、備中指月郡河合村に移住、その15世に至り、中条村に移住してきた。



土居河相家墓地 君推墓

新池の西側に土居河相家の墓地がある。君推の次世代で絶家となり、子孫の墓は不明。君推の碑文は茶山の撰書で、院号の「英」字が欠画となっている。院号「成鑑院慈航智英居士」
 [欠画とは「英」⇒**英**
 時の後桃園天皇の諱、英仁の英の字を憚ったもの]
 墓誌には、君推の和歌が刻まれている。

おいはひくる かぜを枝折に 和け入りて
 とはゝやうめの 花能やま佐登
 (現代風にふりがな加筆 諸説あり) 友人 菅晋帥識



土居河相家墓地

君推墓

象山献燈

十勝碑林の東、柿の下に常夜灯と地神様がある。ここは、北側にあった松風館への入口にあたる場所と考えられている。

常夜灯は金毘羅信仰に由来するもので、正面には茶山の筆で「象山献燈」と大書されている。

東面は「文化丙子孟春」乃ち文化13年(1816)1月西面には「山田谷講中」が建立したとある。北裏面に保之(君推)撰書の和歌が刻まれている。

わがくる 光を古々爾 あらはへて
 宇津須ともしひ 神も美そ那へ
 (現代風にふりがな加筆 諸説あり) 保之

